

2025 年 9 月 30 日

マツダ、カーボンニュートラル実現に向けたロードマップをアップデート

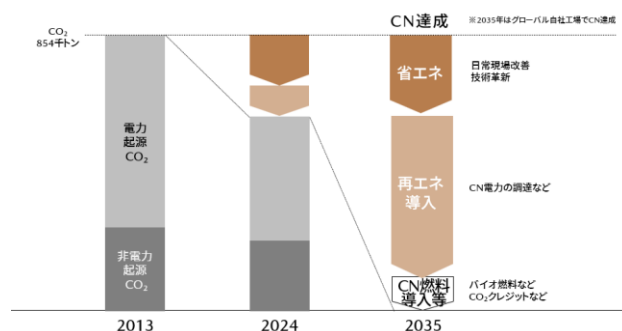
マツダ株式会社(以下、マツダ)は、2035 年にグローバル自社工場でのカーボンニュートラル(以下、CN)を実現するため、二酸化炭素(CO₂)排出量の約 75%を占める国内の自社工場と事業所¹におけるロードマップおよび 2030 年度の間目標をアップデートしました。

今後の代替燃料の調達環境や技術の進展を見据え、より柔軟に対応できるようロードマップをアップデートし、事業を支えるエネルギーの安定調達と CO₂ 削減の促進の両立を目指します。

ロードマップとして、本社工場宇品地区(広島県広島市)にある自家発電設備においては、当初予定していた石炭からアンモニア専焼への燃料転換を見直し、より着実に脱炭素を推進すべく、既に発電技術が確立され、LNG²から作られる都市ガスを燃料とするガスコージェネレーションシステム³に切り替えていく方針としました。このシステムは設備の小規模な改造のみで CN 燃料として期待される水素へ段階的に切り替えを可能とするもので、将来的には CN 燃料の社会実装の進展と共に脱炭素を進めていくことを視野に入れています。今後、川崎重工業株式会社と共創し、エネルギー利用効率が極めて高く、工場操業に合わせ最適なエネルギーマネジメントが可能なガスコージェネレーションシステムの仕様などを検討していきます。



マツダが導入の検討を進めるガスコージェネレーションシステム(写真: 川崎重工業株式会社神戸工場パワーセンター3号)



マツダ国内自社工場・事業所 カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ(2025 年 9 月 30 日時点)

これに伴い、本社工場および防府工場の両拠点で現在稼働中の石炭火力発電は、2030 年を目処に廃止を進めていく計画としています。この計画推進においては、地域のエネルギー事業者である広島ガス株式会社と中国電力株式会社のご協力も得ながら、地域一体となって取り組みを進めていきます。

なお、今回のロードマップアップデートにより、2030 年度の CO₂ 排出量削減の中間目標を、2013 年度比で 69%から日本の目標と同等の 46%以上と、着実に CN 実現へ移行するべく再評価しました。

マツダは、「省エネルギーの取り組み」、「再生可能エネルギーの導入」、「CN 燃料の導入等」の三本柱の取り組みを通じて、パートナー企業や地域と共に、2050 年のサプライチェーン全体での CN に向けて挑戦を進め、豊かな社会づくりに貢献してまいります。

<関連ニュースリリース>

- 2023.12.14 公表「マツダ、カーボンニュートラル実現に向けた中間目標とロードマップを具体化」
- 2025.2.27 公表「マツダ、キュポラ溶解炉における全量バイオマス燃料での実証操業を実施」

<関連情報>

- 企業サイト内「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」(9 月 30 日 12:00 ごろに更新予定)
- 企業サイト内「気候変動 (2050 年カーボンニュートラルへの挑戦)」(9 月 30 日 12:00 ごろに更新予定)
- MAZDA MIRAI BASE 内「サステナビリティ関連記事」

以 上

*1 国内の自社工場と事業所は、企業サイト内「国内主要拠点」をご参照ください

*2 LNG (Liquefied Natural Gas=液化天然ガス)

*3 ガスコージェネレーションシステムとは、1 次エネルギー(燃料)を使用してガスタービンやガスエンジンを駆動し、複数の 2 次エネルギー(電気、蒸気など)を連続的に取り出すシステム